

7-15. 人と自然との触れ合いの活動の場

(1) 現況調査

① 調査内容

対象事業実施区域および周辺における人と自然との触れ合いの活動の場の分布および利用状況を把握するため、現地踏査を行った。

② 調査方法

四季に対象事業実施区域およびその周辺を踏査し、自然との触れ合いの活動が行われている場所の存在および活動の内容を確認・記録した。また対象事業実施区域が位置している鳥居平および松尾1区の有識者に対して、自然との触れ合い活動の状況について聞き取りを行った。

調査期日を表7-15-1に示す。

表7-15-1 調査期日

	調 査 日			
	冬季	春季	夏季	秋季
現地踏査	2020年1月18日(土)	2020年5月11日(月)	2020年8月29日(土)	2020年10月16日(金)
聞き取り調査	—	—	—	2020年10月16日(金)

③ 調査結果

現地踏査の結果、対象事業実施区域内で人と自然との触れ合いの活動の場として利用されている場所は確認されなかった。また聞き取り調査でも情報は得られなかった。

地形・地質や動物・植物等の現地調査でも対象事業実施区域および周辺を踏査したが、周辺の道路沿いで山菜採りをする人が見られたものの、その他に人と自然との触れ合い活動としての利用は確認されなかった。

対象事業実施区域内については、周辺からのアクセスがほとんど不可能であり、触れ合い活動のための利用ができないと考えられる。

(2) 予 測

① 予測内容

対象事業実施区域および周辺における人と自然との触れ合いの活動の場の分布および利用状況への影響について予測した。

② 予測方法

現況把握の結果と事業計画の対比により定性的に予測した。

③ 予測結果

現地踏査および聞き取り調査の結果、対象事業実施区域およびその周辺で人と自然との触れ合い活動の場として利用されている場所は確認されなかったことから、本事業の実施による影響はないと予測される。

(3) 評 価

① 評価の方法

評価は、環境の保全上の目標と予測結果および環境保全のための措置を対比し、その整合性を検討するとともに、人と自然との触れ合い活動の場の利用への影響が実行可能な範囲内で回避または低減されるか否かについて検討することで行った。

② 環境保全のための措置

なし

③ 環境の保全上の目標

人と自然との触れ合いの活動の場の環境の保全上の目標は、生活環境の保全上支障を招かないことを基本として、次のように設定した。

人と自然との触れ合いの活動の場の利用に支障を生じないこと。

④ 環境の保全上の目標との整合性の検討

現地踏査および聞き取り調査の結果、対象事業実施区域およびその周辺で人と自然との触れ合い活動の場として利用されている場所は確認されなかったことから、本事業の実施による影響はないと予測され、環境の保全上の目標と整合している。

⑤ 評価

人と自然との触れ合いの活動の場の利用に対する影響の予測結果と環境の保全上の目標に整合が取れていることから、実行可能な範囲で影響を回避または低減できていると評価する。